

クローバーグループ連携事業「俳句」…ちやまを詠む…

令和二年度 春夏秋冬の部 入賞作品

テーマ 「勝山の四季折々」を詠む

選者 福井県俳句作家協会副会長 嶋田 洸 石  
福井県俳句作家協会幹事 石 畝 千恵子

特選 れきし好きぼくのおしろがまたふえた

兵庫県神戸市 田 淵 瑛太郎

選評 一見してわかる小学低学年層の作品。幾つかの好きな「おしろがまたふえた」と、いう云い切りに感動を憶える。「ぼくのおしろ」に加えてくれてありがとう。季語にこだわらない佳い作品です。

特選 系線機きしむ傍ら日脚伸ぶ

愛知県一宮市 サトウ マコト

選評 中七の描写が何とも云えぬ当たりと動きを感じさせる佳句に仕上りました。地元としてはずーと残しておきたい要望にかられます。

特選 銀世界首からうえのほとけさま

福井県勝山市 中 村 尚

選評 この冬の豪雪を思わせる句です。清大寺の戸外の仏様の様子を詠んだものでしょう。それにしても「首からうえのほとけさま」とは、つい笑ってしまいます。

入選 秋を待つ絵を描くようなコンバイン

福井県大野市 酒 井 彩 那

入選 寄り添って季節は巡る繭の糸

福井県敦賀市 田 中 舞 子

入選 平泉寺こけ一面にせみの声

茨木県坂東市 小 野 隼 斗

入選 まほろばは緑なりけり法師蟬

福井県勝山市 中 村 芳 子

入選 とりどりの落葉誘う登城道

福井県坂井市 中 村 恵 實

入選 雪吊りの結び目確と山の寺

岐阜県郡上市 林 廣 秋

特別賞 企てるいぎ御城印冬の陣

福井県勝山市 木 下 絹 枝  
入選は順 不同